

令和4年度 事業報告

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の動向に翻弄された。第8波は、年末から感染者が急増し、年明けには新規感染者数が過去最多となり、季節性インフルエンザも3年ぶりに流行期に入った。2月以降、感染状況が落ち着き行動制限は緩和されたものの、観光客の入り込み状況が回復したと言えるまでには至らない中で年度が終了した。

一般社団法人名張市観光協会（以下「観光協会」という。）では、意識して日常の情報収集に努めるとともに名張市の魅力としてホームページやSNSによって効果的に発信することに努め、一方で、グーグルビジネスプロフィールの積極的な活用に取り組むなど、コロナ収束後に生きる事業の推進に重点を置いて取り組みを進めた。

I 公益事業に関わる事業

1 観光まち歩き事業

(1) 「ボランティアガイドと歩こう」の開催

前年度の定員45名から令和4年度は定員60名に増やして募集した。令和4年3月に募集した前半3回の応募は定員を超える申し込みがあったが、8月に募集した後半3回の応募は定員に達しなかった。元来、名張市民に人気のある事業であるが、8月の募集時期に県外移動が緩和され市外観光に興味に移ったことで応募者数が減少したものと考えられる。

開催日	テーマ等	実参加者数
4月 4日 (月)	「開通100周年 幻の伊賀線を歩く①」 (伊賀神戸～桔梗が丘) (約7km)	46人
5月 9日 (月)	「開通100周年 幻の伊賀線を歩く②」 (桔梗が丘～名張) (約5km)	50人
6月 6日 (月)	「ささゆり咲く深野を訪ねて」 (約12km・弁当持参)	31人
9月26日 (月)	「たっぷり名張藤堂家」 (約4km)	36人
10月24日 (月)	「八幡から薦生の里を訪ねて」 (約8km)	54人
11月21日 (月)	「晩秋の夏見路 歴史と自然」 (約5km)	45人

※参加者数に変動があるのは、天候等により当日欠席者が出るため。

(2) 観光ボランティアガイドの案内スキルの向上支援

○定例会

観光ボランティアガイドで組織されているボランティアガイド「おきつも」（事務局：観光協会内）においては、月1回、原則第3木曜日の午前10時から自主的な定例会が開催され、活動内容の協議や研修活動を行っ

ている。

観光協会として定例会に出席することで、ガイドと観光協会の緊密な連携に努めた。

○研修会

・視察研修

目的 ガイドとしての知識を深めガイド力のレベルアップを図る

実施日 令和4年10月7日（金）

視察地 滋賀県彦根市 佐和山城・彦根城及び周辺

成果 彦根市のボランティアガイドにガイドをお願いし、直接ノウハウを吸収した。

・月次研修

ボランティアガイド「おきつも」において原則月1回、課題に対応したテーマを定め座学や現地学習を実施。（令和4年度は11回実施）

・講座情報の共有と積極的な参加促進

ボランティアガイド「おきつも」では、名張市、市内の地域づくり組織市民団体等が開催する郷土を知るための各種学習会へ積極的に参加を呼びかけ、定例会において出席者から内容の伝達がされている。（令和4年度は学習会に56回参加）

（3）観光ボランティアガイドのまち歩きへの活用促進

○観光客からの申し込みによる個別ガイド

利用実績

申込者住所	申込件数（参加人数）		
	令和3年度	令和4年度	増減
市内	3（69）	7（397）	+4（+328）
市外	4（38）	6（85）	+2（+47）
計	7（107）	13（482）	+6（+375）

対応したガイド人数 延べ23人

※行動制限の緩和により1団体当たりの参加人数が著しく増加

○名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館にガイド配置

（令和3年度途中から名張市教育委員会の依頼により継続）

配置日数 95日

ガイド配置数 延べ185人

配置日における入館者数 両施設計 1,233人

（4）なばり観光案内所

令和4年2月に名張駅前に開設した「なばり観光案内所」をまち歩きの出発点としてサービスを強化し、ガイドなしでもまち歩きができるメニューの充実にも努めた。

このほか、市民団体や学校が考案したウォーキングマップなど案内所スペースを活用して多様なチラシ等を目に見える場所に配置し来訪者の目的に合わせて紹介した。

II 観光客の誘致促進に関する事業

1 インフォメーション業務について

(1) なばり観光案内所機能の充実

○ウイルス対策の徹底

みえ安心おもてなし施設「あんしん みえリア」の登録を行い、三重県指針等に基づき感染対策を実施し、全国旅行支援「おいでよ！みえ旅キャンペーン」等各種事業に参画した。

○訪日外国人の受け入れ体制の充実

J N T O認定観光案内所（カテゴリー1）認定施設として、J N T Oと連携して訪日外国人の受け入れを行った。

2月以降、外国人の問合せメールや窓口来訪が増え、翻訳アプリ等を活用して対応した。

○パンフレット類配架スペース、ミニイベントスペースの有効活用

会員のパンフレット・チラシ類のほか名張市後援事業等のチラシ・ポスター類の配架を積極的に受け入れた。

また、名張駅前イルミネーションの協イベントとして、営業時間外にライブ演奏スペースとしてミニイベントスペースを開放した。

○窓口専用パソコンの有効活用

近年は、スマートフォンやパソコンの使用が苦手な来訪者が多くなっており、職員がインターネット情報を検索し情報提供することがほとんどであったため、市外の観光情報に関する問合せについても、できる限り職員がパソコンを活用することで来訪者の希望に応じるように努めた。

○年中無休体制（年末年始を除く。）の継続

令和4年12月29日から令和5年1月3日までの年末年始を除き、午前9時から午後4時まで年中無休で営業した。

窓口対応 年間 3,965件

電話対応 年間 3,007件

旅行会社・情報誌・ネット事業者・報道機関への情報提供 158件

2 情報発信について

(1) ホームページの充実とSNS発信の強化

○ホームページ

公式ホームページ 年間ページビュー数 297,748PV

(昨年227,541PV)

- ・TOP画面上部画像 市の「#名張感動」投稿キャンペーンと連携し、投稿者の承諾を得ながら画像を更新（年4回×6作品程度）

- ・大型バナー 「名張川納涼花火大会」、「赤目四十八滝幽玄の竹あかり」の開催時に期間限定で掲載
- ・お知らせ 観光客への注意喚起やイベントの募集案内など特に重要な情報を掲載（年25本）
- ・四季のブログ 季節に応じたコース紹介など取材をしながら情報発信（年16本）

○SNS

ツイッターをSNSのメインに設定している。名張市の天気情報、会員情報、観光情報をバランスよく発信することに努めた。

フォロワー数	ツイッター	3,847人	(昨年3,838人)
	インスタグラム	1,495人	(昨年1,489人)
	フェイスブック	924人	(昨年923人)
投稿数	ツイッター	1,099本	
	インスタグラム	37本	
	フェイスブック	33本	

なお、12月からツイッターで再生数が表示されるようになったため、閲覧者の反応が確認しやすくなり、ホームページとは関係なく1ツイートで最多4,400件、最少でも約300件閲覧されていることがわかった。閲覧しなくても定期的に各ツイートをチェックしているユーザーが少なくとも4,400人いると想定できる。

(2) ガイドマップ、ポスター、チラシによる情報発信

「なばり観光ガイドマップ」は最新情報掲載の観点から年1回の内容修正・増刷が望ましいと判断し、年間消費量10,000部を想定し増刷した。

ポスターは、奈良県で開催された「ガストロノミーツーリズム国内フォーラム」用として名張の地酒ポスターを2種類（各1枚）制作し、必要に応じ印刷できるデータとして保管している。

また、名張小学校や名張高校が進めた観光ポスターやパンフレットの制作に協力した。なお、前回制作した赤目四十八滝ポスターは在庫保管している。

継続的に配布するチラシは、大量印刷すると無駄が多いため観光協会のレーザープリンタを活用し、必要に応じ内容修正しながら随時印刷し補充・提供した。継続的に活用可能なチラシはデータで保管している。1年を通じて大量印刷が必要な事例はなかった。

3 プロモーション事業の推進について

(1) 会員の企画・提案による主催イベント等の開催

- ①主催イベントの「名張駅前イルミネーション」は、12月16日（金）～1月31日（火）（毎日）及び2月3日（金）（イルミネーションライブ）、2月7日（火）・8日（水）（八日戎）に点灯した。

非会員を含む実行委員会を組織化できるように計画を進めた。会員からイルミネーションの設計・飾り付け、点灯中のライブイベント開催などの協力を得た。ただし、正式な実行委員会の組織化は今後の課題となった。

- ②会員関連では、ポイントだけの地図を頼りに名張駅周辺をたどる「コマ地

図」づくりを支援した。完成した「わくわく名張 町中巡りコマ図」（A4サイズ）は案内所に配架し、お菓子屋さんめぐりとの併用など、まち歩きをさらに楽しむツールとした。

- ③後援事業では、中高生や大学生が主体となって発案した「音楽と食」のイベント「Mix Collection vol・1」（7月24日（日）に朝日公園とadsホールで開催）について、企画段階で観光協会として後援名義使用を許可するとともに、出店できる会員の紹介や市等への手続き支援を行った。

（2）観光キャンペーン等の推進

○三重県のいいもの・うまいものフェア2022

一般社団法人名張市物産振興会と協力し、三重県主催で6月4日（土）・5日（日）近鉄大阪上本町駅にて開催された「三重県のいいもの・うまいものフェア2022」に、事務局職員1名が参加し、観光PRを行った。

○きんてつハイキング

9月16日（金）近畿日本鉄道株式会社主催で開催された「名張駅長お薦めフリーハイキング お菓子屋さんめぐりと隠町散策」に協力し、スタート地点の近鉄名張駅にお菓子屋さんめぐりご祝儀袋販売コーナーを設置、販売したほか、なばり観光ガイドマップの配布や観光案内を行った。

参加者203名 ご祝儀袋3枚入り×48袋販売

○竹あかりイベント

12月3日（土）竹まつり実行委員会、なばり竹あかりSDGsプロジェクト実行委員会の共催で開催された「赤目四十八滝『竹あかりの滝まつり』」の実行委員会構成団体としてお菓子販売を担当し、赤目自然歴史博物館前において出店した。

○イオンモール京都桂川 三重県フェア

12月4日（日）三重県がイオンモール京都桂川において開催された三重県フェアに伊賀流忍者観光推進協議会の構成団体として参加し、ガイドマップの配布など観光PRを行った。

（3）旅行会社やメディアへの積極的な営業活動の実施

○NEXCO中日本

「ぶらりMAP」春夏号及び秋冬号に赤目四十八滝の広告を掲載するとともに、オプションサービスを活用して東名・名神高速道路のドライブイン3か所になばり観光ガイドマップを配架した。

○三重テレビ

10月6日（木）17:35～17:40に放送された番組「bunbunみえ」で「お菓子屋さんめぐり」の紹介をした。

○毎日新聞

9月22日（木）の朝刊関西版に「お菓子屋さんめぐり」の記事を提供した。

○中日新聞

9月24日（土）の朝刊三重県全県版に掲載された三重トヨペット広告内の名張特集記事作成に協力し、市内観光地の情報提供や取材先調整を行った。

○その他

桜、花火大会、彼岸花、紅葉、イルミネーションなどについて、各種メディアから随時最新情報の提供や地元調整などの依頼があり、その都度対応した。

(4) 各種イベントへの参画

- ・名張桜まつり（実行委員会構成員）
- ・名張川納涼花火大会（実行委員会構成員・事務局）
- ・名張秋まつり（実行委員会構成員）
- ・八日戎（広報窓口・連絡先・問合せ先として協力）
- ・松明調進行事（情報発信）

(5) 企業主催イベントへの共催・後援

企業や民間団体主催の事業に対し、共催、協力、後援等さまざまな手法により協力するとともに情報発信に努めた。（具体的な内容は前述の各項目参照）

4 観光商品、旅行商品の販売促進について

(1) ふるさと納税の返礼品受発注委託業務

会員の新規企画を実現に向けての手続きや、観光協会から企画提案を行った。
新返礼品 4件、既存返礼品の見直し等 11件

(2) 「なばりでお菓子屋さんめぐり」事業

事業開始から約2年が経過し、名張市内をまち歩きする際の定番として定着しつつある。原材料費の高騰などによりコインとの交換商品の見直しが必要となることから、マップや「ご祝儀袋」は、職員がその都度、観光協会のプリンターで作成し、メニュー変更を即時マップ（メニュー）に反映させた。

(3) 「やしんぼセット」事業

お菓子観光のまち「なばり」をアピールするツールとして内容の充実を図った。原材料費の高騰などにより商品構成の見直しが必要となることから、弾力的に組み替えができるように工夫した。

2,000円セット 58箱、2,500円セット 11箱、
2,700円セット 2箱、3,000円セット 25箱、 計96箱

(4) WEBの活用

ツイッターを中心に会員情報を発信した。年間のツイッター投稿数 1,099本のうち約3分の1は会員情報となっている。

「グーグルビジネスプロフィール」により会員が発信力強化する取り組みに着手した。

名張市の取り組みと連携し、IT活用が苦手と思われるモデル事業者を中心に、グーグルが独自に表示している店舗情報を、正確かつ魅力ある内容に変更した。16事業者に対し追跡調査したが取り組みの効果が実感できない段階であり、事業の継続が必要である。

(5) 2025年大阪・関西万博を見据えた観光誘客

国・県・市の動向を見据えての取り組みが必要で、特に市行政との連携が最も重要となることから情報収集する段階にとどまった。

(6) レンタサイクル事業

令和4年度の新規事業として、名張市が所有するクロスバイクを無償で借り受け5月15日からレンタサイクル事業を開始した。近鉄名張駅前で実施していることからリピーターも含め利用者が増えつつあり、案内所の中心的な事業のひとつとして認知度も高まっている。

大人用 延べ52台、子ども用 延べ4台

(キャッシュバック台数内訳 500円 15台、1,000円 11台、なし 30台)

・レンタル料(試行) 1台あたり24時間まで(返却時間9:00~16:00) 1,500円

返却時キャッシュバック 会員店レシート 計 5,000円~9,999円で 500円

〃 10,000円以上で 1,000円

東大和西三重・東奈良地域在住者 500円

(キャッシュバック上限は1,000円)

III 会員事業と協会運営に関わる事業

1 協会経営の合理化について

財政が厳しく、令和4年度事業費の予算が十分に確保できなかった状況であったため、まず、協会経営を安定化したうえで、令和5年度で新たな事業を展開できる予算を生み出すことを優先課題に据えて、欠員となっている正規職員の雇用を見送るなど人件費を含め各種経費の削減に取り組んだ。

2 会員主体の協会づくりについて

事業予算が限られていたこと、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せなかったことなどから、会員の提案を新たに具体化するまでには至らなかった。

「名張駅前イルミネーション」は非会員も含む実行委員会の組織化を念頭に計画を進めたもので、組織化までには至らなかったが会員を中心に若者とのネットワークができた。

3 「名張かわまちづくり事業」の推進について

市長を会長に名張商工会議所等が参加する「名張かわまちづくり協議会」の構成団体として参加した。やなせ宿周辺の河川整備はこの協議会の関連事業となっている。

4 会員特典の明確化と会員数を増やす取り組みについて

年度末まで新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で経営が苦しい事業者が多く、積極的な取り組みをすることができなかったが、SNSなどを通じて観光協会に入会することがメリットであると感じられるような情報の発信に努めた。

入会 2 会員、退会 4 会員、休会(一時退会希望会員) 2 会員

5 職員体制の充実

(1) 職員の能力向上

研修会がZOOMで実施される機会が増え、事務所内で職員全員が受講できることとなり、職員の意識向上につながった。

(2) 職員数の充実

協会の将来を担う優秀な人材の確保には至らなかった。3名のスタッフでなばり観光案内所の年中無休体制に対応することは困難なため、不定期かつ突発的な代行協力者を確保した。